

名誉会員（会員歴は、名誉会員となられた時点のもの）

田村 明さん 会員歴22年2月

1926年12月 生まれ 自治体学会顧問、都市政策プランナー

企画調整局長、技監を勤めた横浜市時代、1984年「自治体政策研究交流会議」を神奈川県とともに開催し、「自治体学」の必要性と可能性を模索するなかで、自治体学会設立準備委員会代表を経て、1986年自治体学会を設立し、初代代表運営委員となる。設立当時の熱気は、自治体学会ホームページにある「自治体学会設立の経緯」の文章から、力強く現在に伝えられており、「多様性を包含しながら、地域の自立と自治を目指す共通の意欲を持つ人々が互いに集まり、経験を交流し協働すること」の意義を訴えている。

千葉 富三さん 会員歴22年8月

千葉さんは、1933年岩手県生まれ。元遠野市職員。

1986年の自治体学会設立時に発起人の一人として、全国に呼びかけ、その後、地方選出の運営委員として学会の発展に貢献。

代表運営委員を歴任し、現在は、自治体学会顧問として創設時以来の自治体学会の生き字引として偉大な存在。

遠野市職員時代も、先駆的な行政の企画マンとして、1959年に日本初の横書き条例の遠野市例規集を刊行。

1971年には全国初の文化行政推進の複合施設である「遠野市市民センター」建設。1979年には小規模水力発電とソーラーシステムを取り入れた複合宿泊施設「水光園」建設など、遠野のまちづくりのキーマン。

岡田 文淑さん 会員歴22年8月

1940年愛媛県生まれ。元内子町職員。

1986年の自治体学会設立時に発起人の一人として、全国に呼びかけ、その後、地方選出の運営委員として学会の発展に貢献すると共に、自治体学会の設立に呼応するかたちで1987年に設立された、えひめ地域づくり研究会議の発起人・代表運営委員の一人として、愛媛県内外のネットワークづくりに尽力された。

内子町職員時代は、1976年より町並み保存に関わり、内子の町並みを全国区に。その後、農村風景や環境を守り・再生しながら、山間地域の振興を図る「村並み保存」運動を展開し、現在に至っている。

岡田氏の言う「引き算型まちづくり」は、辛口の意見ながら、真に充実した地域社会づくりを目指すものにとって貴重なバイブルであり、現在においてもその行動力や理論は、我々の先端を行くものである。

松下圭一さん 会員歴23年11月

1929年福井県生まれ。法政大学名誉教授。

1986年の自治体学会設立に特に尽力し、発起人の一人として、全国に呼びかけ、この人がいなければ自治体学会は存在しなかったと言っても、過言ではない。

その後、直接運営にかかる役員とはならなかったが、様々な研究者に自治体学の必要性を説き、参加いただくなどの運営に関する下支えを行っていただいた。

愛する自治体学会を暖かく、かつ厳しく見守り続け、全国の自治体学会会員及び自治体職員、研究者等に大きな示唆を与え続けた。その意味では、自治体学会の精神的な支柱のお一人ある。

自治体学及び地方分権に関する文献や政策の発表など、学会及び地方自治の進展にも大きな功績があり、「市民自治の憲法理論」「シビルミニマムの思想」「自治体は変わるか」など、市民及び自治体職員、研究者等大きな影響を与えた。

また、常に辛口の意見ながら、その意見は真に充実した地域社会づくりを目指すものにとって、貴重なバイブルであり、現在においてもその行動力や理論は、我々会員の先端を行くものである。

鳴海 正泰さん 会員歴23年11月

1931年、青森県生まれ。元横浜市企画調整局専任主幹。関東学院大学名誉教授。

1963年、飛鳥田横浜市長に請われて横浜市に入り、横浜市の独自行政をはじめ革新自治体の政策に携わった後、1980年より関東学院大学経済学部教授。地方自治論・地方財政論。

1984年、全国自主研究交流会議に参加の後、松下圭一氏、森 啓氏と自治体学会設立を提案。長洲神奈川県知事のもとで設立準備研究会に参加。

1986年、自治体学会最初の企画部会員、役員選考委員、編集部会員を歴任、また今期は学会の監事を務めている。

1975年に論文「自治体問題から自治体学の創造へ」を発表。著作には、市民自治の視点から1987年『転換期の市民自治』、1991年『地方自治を見る眼』、1994年『地方分権の思想』、2003年『自治体改革のあゆみ』などがある。24回の大会無欠席で学会の発展に貢献した。

西尾勝さん 会員歴25年11ヶ月

西尾さんは、1938年、東京都生まれ。東京大学法学部卒業。東京大学法学教授、国際基督教大学教養学部教授を経て、現在、公益財団法人後藤・安田記念東京都市研究所理事長。2011年8月、第30次地方制度調査会会長。

地方分権推進委員会（1995～2001年）の中心的メンバーとして、機関委任事務制度の全面廃止や、国による地方自治体への関与の縮小・廃止などを含む、第一次地方分権改革を実現させた。

1986年5月自治体学会発足とともに、1995年まで代表運営委員、1986年から91年まで編集部会長を務め、学会の基礎を作るとともに、発展に大きく寄与された。西尾先生の尽力を抜きに今日の学会を語ることはできない。97年から学会顧問として現在に至っている。

今年全国3箇所で開催する学会プロジェクト「自治・分権再考～自治を志す君たちへ」西尾勝集中セミナーでは、自治・分権の情熱を次代につなげる熱い思いをもとに長時間にわたり講師を務めている。

主な著書に『権力と参加』、『行政学の基礎概念』、『行政学』、『行政の活動』、『未完の分権改革』、『地方分権改革』等がある。

高寄昇三さん 会員歴25年10ヶ月

高寄さんは1934年、神戸市生まれ。元神戸市 市長室参事 甲南大学名誉教授。経営学博士。現在、(財)神戸都市問題研究所 常務理事。

1960年神戸市役所に入る。1985年神戸市役所退職。甲南大学教授。地方自治論・地方財政論。2003年姫路獨協大学教授を経て、2007年退職。

「自治体学会」設立総会を前に1986年2月神戸自治体学フォーラムを開催。1968年5月自治体学会発足とともに、学会最初の企画部会員で運営委員、93年から95年まで代表運営委員、98年から01年まで運営委員を務め、02年から顧問として現在に至っている。

近畿自治体学会でも、研究会を主宰するなど、会員の指導育成に多大の尽力があった。

1975年「地方自治の財政学」勁草書房にて「藤田賞」受賞。1979年「地方自治の経営」学陽書房にて「経営科学分権賞」受賞。

高寄さんが実践した神戸市政は他の革新自治体とはひと味ちがいが、シビルミニマム論と行政改革論とが矛盾なく結合し、1980年代に存続し、その都市経営の思想は学会及び地方自治の進展に大きな影響を与えた。

高橋寛治さん 会員歴25年3ヶ月

高橋さんは1944年生まれ。中央大学法学部法律学科卒業。元飯田市職員、高野町副町長。1959年4月飯田市役所入り、まちづくり推進室長、産業経済部長などを経て、2004年10月1日から2010年6月7日まで高野町副町長。

住民との協働により、「飯田方式」と呼ばれる居住を中心にすえた潤いあるまちづくり（再開発事業）を企画し、全国から脚光を浴びる。そのほか、観光ビジネスとは一線を画した学生向け体験教育旅行を全国に先駆けて実施し、市民のコミュニティビジネスとして成長させた立役者でもある。

1986年の自治体学会設立時に発起人の一人として、全国に呼びかけ、多くの大会に登壇、住民との協働のまちづくりを提唱、その後、地方選出の運営委員として学会の発展に貢献した。

主な著書に「飯田市における人材育成」共著（ぎょうせい）、「まちづくりと町格」共著（自治大学校）、「まちづくり学への試論」単著（(社)農山漁村文化協会）など。